



「当院の口蓋裂治療と IT 利用の変遷について」 — 地方都市函館で、歯科医として 45 年 —

日本成人矯正歯科学会 理事長
村井 茂

このような機会を与えていただき、大変名誉なことだと大会長の重枝先生に、深く感謝いたします。今回は、第 29 回大会をすこしでも、盛り上げることになればという思いで、講演させていただきます。また、医科大学がない地方都市で、口蓋裂児の治療を通して函館市民に少しでも貢献したいと考えて、45 年間努力し、かかわることができました喜びをお伝えできればと考えております。

大学卒直後、札幌医科大学口腔外科で、口唇顎口蓋裂の治療にかかわり、矯正歯科の知識を得るために、本会の初代理事長、佐藤元彦先生が教授に就任されておりました北海道医療大学の門をたたきました。口腔外科と矯正歯科を経験したのち、34 年まえに、故郷である函館に戻りましたが、その時に 2 つのテーマを実現したいと考えておりました。

1 つは、函館地区の口唇顎口蓋裂の子らに矯正治療を含めた総合的に関わりたい。

2 つめは、コンピュータを日常の歯科診療に、地方都市で積極的に取り入れたい。

あくまでも 1 開業医ですので、限界はありますが、現在まで、このテーマに沿って、取り組んできました。

この間、当院に来院した口唇顎口蓋裂患者は、238 名で、出生率を考えるとこの道南地区の約 75% 以上の方に来院して頂けたこととなります。コンピュータについては、35 年前、三金より発売された矯正分析ソフトの開発にかかわり、また 20 年前株式会社クロスフィールドと共同で、イスラエルよりイメージングプレート方式の輸入に関与できたことは、良い思い出です。近年、Maestro 3D Orthostudio や 3Shape ortho-analyzer その他の、矯正関連ソフトが市販されてきており、もうすでにこれらに関する沢山の報告がされております。当院でも一部取り組み始めており、これらのソフトを使用し、口腔内スキャナー（Planmeca Japan 株式会社）と、アライナー、インダイレクトボンディングを実用化しております。これら途中経過にはなりますが、症例を含め、報告するとともに、地方都市、函館の 1 開業歯科医としての 45 年の経験を併せて報告いたします。

略 歴

1975 年	岩手医科大学歯学部卒業	1984 年	函館市立病院歯科科長
1976 年	札幌医科大学歯科口腔外科 助手	1988 年	みはら歯科矯正クリニック 院長
1979 年	北海道東日本学園大学歯学部矯正歯科学 講座 助手	1995 年	医学博士（東京医科大学）
1983 年	同講師	2021 年	日本成人矯正歯科学会 理事長